円滑な公園管理を行いながら
楽しい公園づくりを！

辻村　佐保子[1]・岡田　哲也

関東地方整備局　長野国道事務所　公園課（〒399-8305長野県安曇野市穂高牧149-12）

国営アルプスあづみの公園は、春は花修景、夏は川を使った水遊び、秋は花修景と紅葉、冬は雪遊び、イルミネーションといった四季を体感できる公園である。周辺環境にも恵まれ、北アルプスに囲まれた自然豊かな場所でリラックスした気分になれると、老若男女から愛されている。

そんな当該公園だが、関東地方整備局内で入園者数が一番少ない公園である。そこで、どのようにすれば、入園者数を増やし、入園者の満足度を高めることが出来るのかを考えた。

本稿では、その取り組みについて報告する。

キーワード　国営公園，公園管理，コミュニケーション，魅力向上

1. はじめに

(1) 国営アルプスあづみの公園の概要

当該公園は長野県北西部の安曇野地域に位置し、北アルプスの麓に存する公園である。

園内は、「堀金・穂高地区」、「大町・松川地区」の2地区に分かれている。「堀金・穂高地区」は100ha、「大町・松川地区」は253haであり、両地区を合わせると東京ドーム約75個分の広さに相当する。

また、標高が高い箇所に位置しており、最も高い地点になると東京スカイツリー（634m）と同等の高さになる。

「堀金・穂高地区」は常念岳を背に広がる耕作地跡を利用した広場や池、山麓の棚田跡地を活かした、田園文化ゾーンと里山文化ゾーンで構成されており、田園文化ゾーンの中央には烏川が流れている。「大町・松川地区」は餓鬼岳を背に、アカマツを中心にした森林が広がる自然豊かな環境を活かしセンターゾーン、林間レクリエーションゾーン、保全ゾーン、渓流レクリエーションゾーン、自然体験ゾーンとそれぞれの特長を活かした5つのエリアで構成されている。渓流レクリエーションゾーンには乳川が流れており、夏のイベントでも大変人気のエリアである。

入園者からは、両公園に流れている川の水のきれいさ、園内で写真を撮る際に背景に映る山の景色、季節ごとに植替えを行っている花修景は、特に好評をいただいている。目に見えるものももちろんだが、空気もとてもきれいであり、山脈に囲まれ、各季節を感じることのできる、とても魅力的な公園である。

図1　国営アルプスあづみの公園　位置図

図2　国営アルプスあづみの公園　詳細図

図3　堀金・穂高地区　春　花修景と常念岳

図4　大町・松川地区　夏　乳川を使った水遊び

(2) 公園の仕事とは

公園の仕事は、大きく分けると2軸で動いている。当該公園の場合は、「長野国道事務所公園課」（以下、国）と「運営維持管理業務の受託者」（以下、管理センター）で行っている。

国の主な業務は、公園全体の予算管理、工事・業務発注、関係機関・地元との調整、熊等の動物対策、占用許認可等。管理センターの主な業務は、入園者対応、生き物・植物の管理、イベント等の計画・運営、レストラン等の収益施設運営、清掃等になる。

図5　堀金・穂高地区　秋　花修景

図6　大町・松川地区　秋　ロードトレイン

2. 公園の現状と課題解決に向けて

(1) 公園の現状

2004年から部分開園を行い、2016年に両地区が全園開園した。2024年に開園20周年を迎え、同年12月25日には総入園者数が800万人を達成した。2024年度の入園者数は約39.7万人、2025年度は約41万人超の入園者数が見込まれている。

2024年度の入園者数である「約39.7万人」は、関東地方整備局内にある他の国営公園と比べ非常に少ない入園者数である。例えば「国営ひたち海浜公園」の場合、2024年度の総入園者数が「約203万人」、コキアの紅葉が見頃を迎える10月は、1か月で「約36.2万人」の入園者数となる。

国営ひたち海浜公園のピーク時1か月の入園者数と、国営アルプスあづみの公園の1年間での入園者数は、大きく変わらないことがわかる。

入園者数が少ない要因として挙げられる1つに交通アクセスの不便さがあると考える。当該公園は、両地区とも最寄駅から車で15分かかるところに位置し、公共交通機関も少ない。車を利用できない場合、タクシーを使うことが多くなるが、「堀金・穂高地区」は3,500円程度、「大町・松川地区」は4,500円程度片道で掛かってしまう。さらに「堀金・穂高地区」から「大町・松川地区」までを移動するにも車で30分程度かかる。交通アクセスの面では、他の国営公園に比べて劣っている。

交通アクセスの不便さはあるが、すぐに解決できる問題でない。そのため、「この素敵な公園にどうしたらもっと人が来てくれるか？今できることは何かないのか？」と考え、その対策を検討した。

※参考：2024年度の入園者数

・国営武蔵丘陵森林公園　　約70万人

・国営昭和記念公園　　約350万人

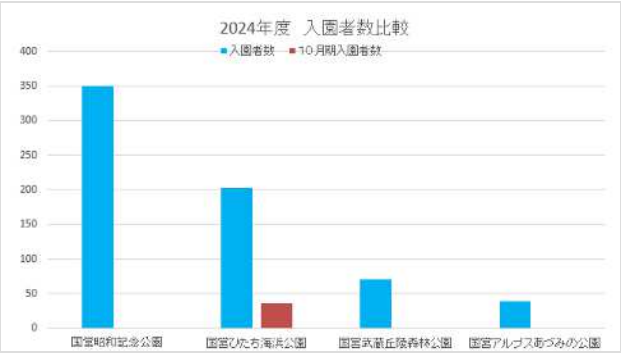


図7　2024年度　入園者数比較

(2) 課題解決に向けて

私自身、公園管理・運営に関する知識が無いため、どのような公園であれば多くの人が来てくれるかを検討するために、管理センターのスタッフに協力を依頼した。

管理センターの職員は、全国にある様々な公園を管理・運営した経験と、多様な年齢層の方が在籍しているので、多くの経験・知識、各年代からそれぞれいいアドバイスがもらえると考えたからである。

管理センターの幹部と国で月に1度、定例会議を行っており、その会議で「あづみの公園の未来を語る会（仮称）」（以下、未来を語る会）を提案した。

国で考えたこの会は、あづみの公園をより楽しく、魅力的な公園にし、多くの人に喜んでもらえる公園づくりを目指す為にできた会である。意見交換を行い、その意見を組み合わせて、実際の公園にどのように反映させるかを検討していく。

3. 未来を語る会を行うにあたり

(1) コミュニケーションの必要性

当該公園は、管理センターと国の事務所が離れた場所にある。管理センターの幹部とは月に1度、顔を合わせる機会があり、業務上のやり取りを行っているが、それ以外の職員とは接点が少ない。顔と名前が一致しない職員も数名いる。そのため、管理センター職員と国の職員は、業務上のやり取りがないと、会話することはほぼない。

より楽しく魅力的な公園をつくるために、職員同士のコミュニケーションも非常に重要となる。園内の職員同士に悪い雰囲気があれば、その空気感は入園者にも伝わってしまうからだ。

そのため、管理センター職員と国の職員のコミュニケーションを円滑にし、日々の業務・業務以外でも話をしやすい環境をつくる必要がある。

職員がイキイキと仕事をしていれば、その前向きな雰囲気が入園者にも伝わり、「きてよかった」と思ってもらえる公園になると考える。

より良い公園にするためのアイディアはもちろんだが、園内に楽しい雰囲気を自分たちでつくるることも、魅力的な公園に必要な大きな要素になると考える。

未来を語る会をきっかけに、コミュニケーションを円滑にしていく必要もある為、こうした経緯の元、公園管理センターの幹部職員以外と国の職員での意見交換が行われることになった。

(2) 未来を語る会の実施

未来を語る会を始めるにあたり、すべての意見を無駄にしたくないため、前提条件をいくつか設けた。

① 予算・実現性は気にしない。
② ほかの人の発言を否定しない。

という2点である。

①はアイディアの幅を狭めてほしくない、②は開催中に管理センター職員が萎縮して意見が言いにくくならないように、色々な考え方の人がいるということを理解してもらうためである。

未来を語る会は堀金・穂高地区、大町・松川地区で各1時間半ずつ行った。実際に開催すると、管理センター職員は時間内では収まりきらない程の意見を出してくれた。

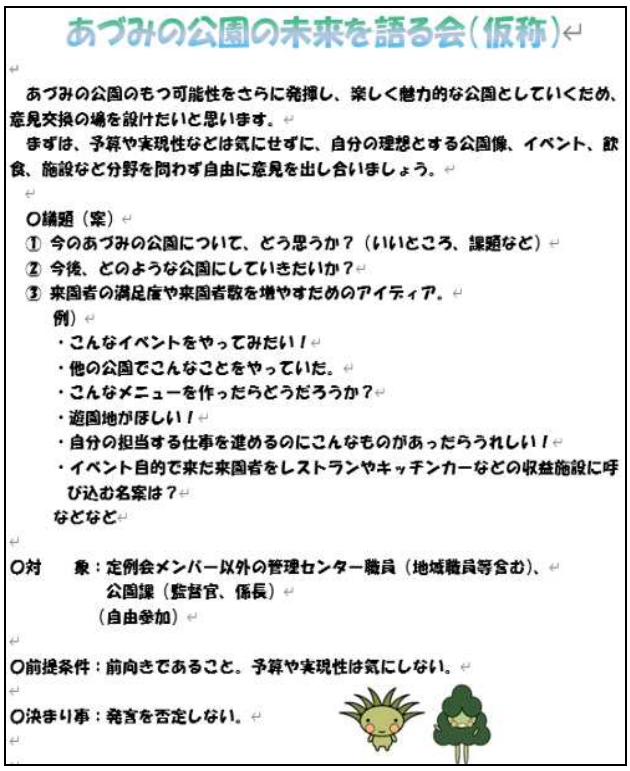
こちらが聞きたかったことがまだたくさんあった為、第二回目を計画中である。

それぞれの担当する地区・立場からの意見、国では拾いきることのできない入園者からの意見、長らく管理を行ってくれているからこそわかる意見など、国も本当に勉強になる意見をたくさんもらうことができた。

木子（もっこ）

草太（そうた）

図8　国営アルプスあづみの公園　キャラクター



あづみの公園の未来を語る会（仮称）

あづみの公園のもつ可能性をさらに発揮し、楽しく魅力的な公園としていくため、意見交換の場を設けたいと思います。

まずは、予算や実現性などは気にせずに、自分の理想とする公園像、イベント、飲食、施設など分野を問わず自由に意見を出し合いましょう。

○議題（案）

① 今のあづみの公園について、どう思うか？（いいところ、課題など）

② 今後、どのような公園にしていきたいか？

③ 来園者の満足度や来園者数を増やすためのアイディア。

例）

・こんなイベントをやってみたい！

・他の公園でこんなことをやっていた。

・こんなメニューを作ったらどうだろうか？

・遊園地がほしい！

・自分の担当する仕事を進めるのにこんなものがあったらうれしい！

・イベント目的で来た来園者をレストランやキッチンカーなどの収益施設に呼び込む名案は？

などなど

○対　　象：定例会メンバー以外の管理センター職員（地域職員等含む）、公園課（監督官、係長）（自由参加）

○前提条件：前向きであること。予算や実現性は気にしない。

○決まり事：発言を否定しない。

図9　未来を語る会（概要）

(3) 意見交換の内容について

未来を語る会の中であった意見を一部紹介していく。ある程度項目を絞ったほうが進行しやすいと思い大枠のテーマのみ決めて進行した。

当該公園について、どう思っているか。それぞれの地区の「いいところ」と「課題」をテーマに進行した。

≪堀金・穂高地区での意見≫

【いいところ】

・公園パートナー（ボランティア）の方が、長く運営を手伝ってくれており、園内について詳しいので入園者に声をかけ、園内の説明をしてくれる。勉強になる。

・山の中にあり、このように自然に囲まれている公園は他にはない。

・イベントを季節に分けて行っているのでわかりやすい。

・子どものころから来ていたが、その頃と変わらない自然の豊かさ。

【課題】

・夏の暑さが課題。屋内施設と日影がとても少ないので、暑さをしのげる場所がない。
子どもは水遊びをしていても、親が日陰で見守ることができない。

・交通のアクセスが悪い。車を持っている人でないと来ることが難しい。

・携帯電話の電波の入りが悪い。イベントでキッチンカーが出ていても、キャッシュレス決済が出来ず、入園者が困っている。

≪大町・松川地区の意見≫

【いいところ】

・公園パートナーの方が以前からずっと熱心。知識経験も豊富で勉強になる。イベントのアイディアもくれる。

・自然が豊かで、管理も行き届いているのできれい。

・樹が生い茂っているので、夏でも涼しい。

・環境教育に適した公園。色んな生物や樹木を学ぶことができる。

・夜は星がすごくきれい。

【課題】

・公園サポーター（ボランティア）の高齢化が進てしており、若い世代が少ない。現在の公園サポーターの知識を後世にどう残していくか後継者を育てる必要がある。

・園内の高低差が結構あるので、車いすの方は大変。

・アクセスが悪い。車がないと来られるようになっているので、若年層のみでの来園が少ない。

以上が主な意見である。これらの意見を踏まえ、どのような公園にしていきたいかを、次回の未来を語る会で意見交換をする予定である。

4. まとめ

実際に管理センター職員から話を聞いてみて国の職員が知らなかった多くの事を知ることができた。入園者の声を聞く機会はあるが、直接意見を言われた管理センター職員の当時の気持ちや、その時の状況等、文字で報告を受けるだけでは知りえないことを、会話をすることで少し理解することができた。

今回、未来を語る会で聞くことができた意見を無駄にすることなく、自己満足ではない「魅力的で楽しい公園」にするために、意見を反映する方法を検討していく。

図 10　堀金・穂高地区　冬　イルミネーション

図 11　大町・松川地区　冬　雪遊び